

## 産業建設常任委員会調査報告書

### 1 調査事件

清川・立谷沢周辺の魅力再発見について

### 2 調査目的

清川地域周辺や月の沢温泉北月山荘周辺及び立谷沢川流域は、稼げる観光産業づくりに繋がる拠点としての可能性があるが、大自然の中にある周辺施設との相乗効果や認知度が低く、魅力ある資源が十分に生かし切れていない。これら観光資源となりうる魅力を再発見し、地域の観光振興施策に資するために調査することとした。

### 3 調査経過

令和2年9月9日（会期中）

令和2年9月10日（会期中）

令和2年9月25日

令和2年10月6日 視察調査 酒田市玉簾の滝、清川八郎記念館、清川歴史公園、御殿林、北楯大堰

令和2年10月14日 視察調査 長者沼、大谷地湿原、殿様街道、熊谷神社

令和2年10月21日 視察調査 化石採掘地、月の沢温泉北月山荘、南部山村広場、六淵砂防堰堤、大池、羽黒古道、砂金採掘地、サイクリングロード

令和2年11月4日

令和2年11月10日

令和2年11月19日

令和2年12月9日（会期中）

令和2年12月14日（会期中）

令和2年12月25日

令和3年1月5日

令和3年1月12日

令和3年1月20日

令和3年2月17日

### 4 調査結果（調査状況）

[現況]

清川地区は、舟運の宿場町の遺構を復元した清川歴史公園、勤皇の志士であった清河八郎の遺品等を収蔵展示している清河八郎記念館、世界かんがい施設遺産の北楯大堰、戊辰戦争の戦場となった御殿林が整備されているほか、有名な松尾芭蕉、義経・弁慶のゆかりの地でもある。

一方、立谷沢地区は月山山頂を有し、町直営の温泉施設である月の沢温泉北月山荘があるほか、立谷沢川は平成の名水百選にも選ばれており、上流に霊峰月山、下流に

は秀峰鳥海山を望むことができる風光明媚な土地で、砂金や化石の採掘地もある。

また、かつて浮島や奇形フナが確認された中島集落の長者沼、県下随一の低山湿地である大谷地湿原、ジュンサイが採れる大池、日本登録有形文化財の六渕砂防堰堤のほか、羽黒古道、殿様街道もある。

さらには全国的に有名な熊谷神社もあるほか、羽黒山開祖の蜂子皇子や徳尼公と三十六人衆のゆかりの地でもある。また、清流立谷沢川に遡上する鮎は有名で、東北各地から釣り人が集まる。

このように、潜在的な観光資源は豊富であるが、一部を除き知名度はあまりなく、町内においても良く知られていない場所も多い。

現在は、コロナ禍の影響によって本町全体の誘客施設への入込客数も激減しており、地域の消費活動の落ち込みも深刻化している状況にある。

このような状況下、観光資源が乏しいといわれる本町において、この地域の観光資源の魅力の再発見と同時に一層磨き上げることは、本町への観光交流人口や関係人口を増やす大きな原動力となりうるものである。このためには、これらの観光資源の発信に加え、カフェスペースを改修した立谷沢公民館、6次産業化の拠点施設として立ち上げたタチラボ、大中島自然ふれあい館の森森(もりもり)等の既に進められている事業等との連携、線で繋いで面として広がる観光ルート網の整備、新たなニーズを喚起する施策などが重要となっている。

#### (1) 清河八郎記念館

昭和37年(1962年)に建設された清河八郎記念館は、明治維新の魁である勤皇の志士、清河八郎の遺品及び明治維新の資料などが百数十点あまり保管されており、その一部が常時展示されている。また、清河八郎遺品資料の中には、漢文の資料が解読できず手つかずの状態となっているものもある。

令和2年度に入り、新型コロナウイルスの影響もあり入館者数は激減している。また、施設は老朽化が進んでいるが、清川歴史公園整備基本計画の2期工事の実施を見込んで、積極的な修理等を行っている。

#### (2) 清川歴史公園

清川はかつて最上川の水駅として発達した宿場町で、旧清川小学校跡地に令和元年4月、清川歴史公園荘内藩清川関所として「川口番所」と「船見番所」が復元された。同時に周辺一帯を「歴史の里きよかわ」として、まち歩き拠点と位置付け、関所内には観光情報コーナーや展示スペース、食事処などが設置されている。

また、清川関所跡は平成28年に「出羽三山生まれかわりの旅」の構成文化財に指定され、日本遺産の認定を受けた。

一方、入場者数は、開所以来、令和2年11月までの累積実績で1万人を超えた。この要因は観光バスの立ち寄り施設になったことや清河八郎記念館との相乗効果も大きいとしている。

#### (3) 御殿林

御殿林は享保年間(1716年～1736年)まで、防風林として整備され、藩主の参勤交代の際の宿泊所(御殿)があったため御殿林と名づけられた。清川を風水害から守ると共に、戊辰戦争時、荘内軍はここに本陣を布いて新政府軍と戦ったゆかりの深い

林である。40～50年前までは、直径1mの杉の巨木が林立しており、その幹からは戊辰戦争時の鉄砲の弾が発見されていたが、倒木の危険からすべて伐採され、現在は世代交代が行われている。

(4) 北楯大堰

慶長17年(1612年)に最上義光(もがみよしあき)の重臣である北館大学助利長公が、立谷沢川から灌漑のために建設した大堰で、総延長32kmで広さ約5,000haの新田が開発され、88の村が開村した。平成30年度世界かんがい施設遺産に登録されている。

北楯大堰に沿って造られた側道は「青鞍之淵遺跡碑」の石碑を起点として、頭首工までの上流約1.8kmを県が、下流約1.76kmは町道(東興野清川線)として町が管理している。側道のほぼ全部はアスファルトで整備され、散策を楽しめる道路となっている。

(5) 長者沼

広さ約6aのこの池には現在は確認できないが、かつては数個の浮島があった。また、出目ブナ、片目のブナなどの奇形種が生息しており、昭和35年(1960年)に昭和天皇が全国植樹祭で山形県を訪れた際に、これをご覧になったことで一躍有名になった。冬には水面に積もった雪がほんのり赤く染まると言われている。また周辺の草刈り等は、中島集落の有志の方々がやっている。

(6) 大谷地湿原

広さ約9haの湿地で板敷山下部緩斜面の海拔200～220m付近の陥没窪地にあり、湿性植物の種類も多く、周囲はハンノキ林に囲まれ、貴重な湿原植物である大ミズゴケ、ミカズキグサ、アゼスゲなどが多く生育している。5月頃には水芭蕉の群生が見られる。

湿原の植生については、平成12年と30年に山形県の「自然生態系保全モニタリング」が行われており、保存状態もよく山形県随一の低山地の貴重な湿原であると評価されている。

(7) 殿様街道(板敷峠越え古道)

かつては殿様街道が、最上川水運と庄内・最上を結ぶ交通の主要なルートであった。江戸への参勤交代などでも利用されたことから、殿様街道と地元では呼ばれている。

街道は板敷から古口までの板敷峠越えのルートであったが、明治11年(1878年)、清川・古口間に磐根新道ができたことによりその役割を終えた。

(8) 熊谷神社

熊谷神社は、中村集落内にある立谷沢第二水力発電所脇から山間に、1kmほど入った場所にある。江戸初期、由井正雪の高弟で、過酷な藩政に苦しむ人々を救おうとして活躍した、義民として名高い熊谷三郎兵衛を守護神としており、縁結びの神として信仰を集めている。ご神体は境内を流れ落ちる滝であり、鶴岡の善宝寺が海の神様、熊谷神社が山の水の神様として昔から2社巡りする習わしがあった。

また、水稻品種「亀ノ尾」の発祥の地であり、神社境内には亀ノ尾発祥の地の記念碑がある。

参道の杉の木は樹齢約350年で、社殿西側の檜澤山(ひのさわやま)斜面にある自然林は、この地方の自然植生を証明する貴重な残存林で、ヒノキアスナロの山形県最大の巨樹自生地である。また周辺の森にはクマタカ、アカショウビンなどの約100種類の野鳥が生息している。

(9) 月の沢温泉北月山荘

町直営の温泉施設であり、温泉は山形県内に3箇所しかない珍しい酸性泉で、ロッジ、ケビン等の施設がある。冬季間は休業しており、今年になって新型コロナ禍の影響や食堂経営委託団体が撤退したことから、現在は宿泊と食事はできず入浴のみの施設となっている。

(10) 南部山村広場

立谷沢の雄大な自然の中で、キャンプ・芋煮会などのアウトドアを満喫できる広場で、夏には毎年全国から約2,000人が集まるオフロードバイクの耐久レースが行われるほか、付近では、イワナのつかみ取り体験や砂金掘り体験も行ってきた。最近ではコロナ禍の影響もあって、テントやキャンピングカーでの利用客も増えている。

(11) 六瀨砂防堰堤

昭和20年(1945年)代に施工された砂防堰堤で、玉石コンクリート造りは当時の高い技術力と熟練した技によるもので、水通し部分の曲線が美しく、平成29年に日本登録有形文化財に登録されている。現在では復元することが難しく、貴重な砂防堰堤となっている。

(12) 砂金・化石採掘地

ア 砂金

立谷沢川は砂金が採れることで歴史的に知られた場所で、江戸時代に「瀬場」という庄内藩直轄の砂金採掘場があり、現在も瀬場という集落が現存している。

イ 化石

科沢付近は庄内平野が海から陸になる過程が記録されている場所で、新生代や鮮新世(約450万年～200万年前)の地層からは、様々な貝化石やクジラの頭部などの化石も発見されており、庄内地方では地質学的に貴重な場所となっている。

現在、このクジラの頭蓋骨、頸椎、下顎(かがく)、肋骨の化石は、県立博物館と山形古生物研究会がそれぞれ所蔵している。

(13) 大池

通称、西山と称する海拔200～350mの台地があり、そこに大池をはじめ多数の池沼と湿地が点在し、代表的な湿地の植物や水生植物が生育している。大池は長さ北西～南東に約400m、北東～南西に約200mの立川地域では最も大きい池である。この池にはジュンサイが多く生育しており、地元住民により採取・利用されている。

(14) 羽黒古道

日本遺産「出羽三山生まれかわりの旅」構成文化財の一つである羽黒古道は、鉢子集落から、出羽三山の開祖として知られる蜂子皇子が修行を重ねたと言われる、羽黒山本社創建の地と伝えられる「皇野(すべの)」を經由し、「出羽三山神社」に至る旧参道である。かつては「皇野」周辺には多くの宿坊があったと言われ、羽黒

古道は羽黒山参りの表参道であった。

(15) サイクリングロード(立川鶴岡自転車道)

清川を起点として月山ビジターセンターや羽黒山五重塔方面のルートで、鶴岡市へ抜けるサイクリングロードである。立谷沢川沿いには、イチョウ並木が整備されている。

[課題]

(1) 清河八郎記念館

ア 記念館は清河八郎の関連資料の永久保存と顕彰事業の基礎を確立することを目的とし建設されたが、空調設備もないことから夏場における展示室の温湿度管理や保存資料のカビ防止対策が十分ではない。また、施設全体の老朽化が進んでおり、特に玄関天井のコンクリートが欠落する恐れがあり危険である。

イ 現在、遺品資料の中で漢文に関する資料のほとんどは難解で解読されておらず、清河八郎の新たな人物像や歴史資料価値の発見に繋がっていない。

ウ 財源が少なく特別展示の開催は年1回に止まっている。

(2) 清川歴史公園

ア 来園者の中には歴史に明るい方も多く、対応する現場のスタッフやガイドの研鑽、育成が必要である。

イ 駅からの直線道路から正面に高麗門が見えるが、その背景にある旧清川小学校体育館は、歴史公園の景観やイメージを損ねている。

ウ 清川歴史公園を庄内地方の周遊ルートの立ち寄り拠点とするためには、大型バスの駐車スペースは不足しており、トイレの数も少ない。

エ 入館者数は増加傾向にあるものの、累積入館者数は1万人程度と少ない。また、稼げる観光拠点となるためには周辺施設である北楯大堰、清河八郎記念館、清川河川公園等と相互に連携可能な、収益が望める事業展開が図られていない。

(3) 御殿林

御殿林の遊歩道は、清川歴史公園と清河八郎記念館を繋ぐ導線とすべきであるが、雨水の浸透性が悪く、雑草も生育するなど歩き難い。また、御殿林の歴史や自然などを伝える案内板等の設置が十分ではない。

(4) 北楯大堰

アスファルトで整備されている大堰の側道が活用されておらず、誘客に繋がっていない。

(5) 長者沼

出目ブナや片目のフナの調査研究の内容が不明で、浮島の存在も確認されていない。また、入り口の案内板の設置や遊歩道・散策路の整備もなされていないほか、地元ボランティア有志の方々の高齢化もあり、草刈りや枝打ち、倒木の処理などのマンパワーが不足している。

(6) 大谷地湿原

ア 県下随一の低山湿原でありながら、国の重要湿原633箇所(うち山形県は14箇所)には登録されていない。旧立川町史によると、平成11年頃に県の天然記念物

指定に向けて検討されたとの記録はあるが、以後の進捗や将来の見通しが不明である。

イ 湿原入口等の草刈りや泥濘(ぬかるみ)等の対策、植生や生態系を保存し、陸地化を防ぐ環境整備が図られていない。

(7) 殿様街道(板敷峠越え古道)

街道はブナ林が美しく、特に新緑や紅葉の季節の景観は圧巻であるが、少数の地元住民が山菜採りなどで利用するに止まっており、登り口からの山道整備がされていない。また、「殿様街道」や「お茶屋」跡の案内板が設置されておらず、新たな魅力の発信に繋がっていない。また、松の木、肝煎(きもいり)集落の住民による年1回の草刈りも、高齢化のため継続が厳しい状況となっている。

(8) 熊谷神社

年間約 2,200 人(添付資料参照)の参拝客を他の施設等にも誘導する仕掛けが課題で、遠隔地から訪れる参拝客を町に止めるなどの囲い込みができていない。また、観光協会のホームページの更新がされていない。

(9) 月の沢温泉北月山荘

ア 黒字経営が可能となる仕組みや担当者が代わっても持続可能な経営体制の構築がされていない。

イ 豪雪は非日常体験の大切な要素であり観光資源でもあるが、冬期間の営業継続の方法の模索や、客層のターゲットの絞り込みができていないなど、誘客の工夫や魅力のPRが不足している。

ウ 稲刈り・魚とり体験、昆虫採集などの自然体験や楽しみ方、木材の利用など収益に繋がるものも多くあるが、周辺の自然を生かした事業やイベントが少ない。また、これらを実行に移すための地域や行政との連携が十分ではない。

(10) 南部山村広場

キャンプ、芋煮会、オフロードバイクの耐久レースなどアウトドアを楽しむことができる施設であるが、利用料金が設定されていない。また、飲食や特産品販売などの出店ブースもないなど、事業収益や環境整備資金を確保する取り組みがされていない。

(11) 六瀨砂防堰堤

立谷沢川の景観を代表する堰堤で、日本登録有形文化財に登録されているものの、現地の案内板では特殊な工法で建設されていることの詳細や、自然景観の魅力等の発信が不十分となっている。また、周辺施設(南部山村広場、月の沢温泉北月山荘等)と連携した取り組みが必要である。

(12) 砂金・化石採掘地

ア 砂金

立谷沢川の砂金は国内でも有数で稀少性があり魅力がある。これを事業展開も含めどのように生かすかが重要である。また、歴史民俗資料館には貴重な砂金採りの道具が保存されているが、これらの展示の仕方や利用方法等について検討を要する。一方、自然環境の保全に関する条例はないことから、自然破壊

にならないように慎重に対応する必要がある。

イ 化石

科沢集落周辺にある化石採掘場所は、立谷沢川流域の成り立ちを知る上で重要な知的財産である。一方で本町の観光資源や自然科学教育等に活用するには、展示しPRできる場所がないなど、採掘資料の保全・展示方法が検討されていない。また、本町には歴史、文化的な拠点施設はあるが、自然探索や自然科学の拠点となる施設がない。

(13) 大池

大池には商品価値の高いジュンサイが豊富に生育しており、地元新田集落の住民が採取・利用しているが、広く知られていない。また、観光資源として活用するための入口から大池までの運搬手段や私道等の整備が不十分である。

(14) 羽黒古道

ア 古道の登り口の「皇野(すべの)」は、羽黒山本社創建の地と言われ、蜂子皇子の墓や神社があったとされる。また、銅鏡が納められていた鏡池の跡地などが現存しているが、本町の観光の魅力の一つとして発信が不十分である。

イ 環境整備は地元有志によってされてきたが、高齢化によるマンパワー不足も顕在化している。

(15) サイクリングロード(立川鶴岡自転車道)

立川鶴岡自転車道は清川から鶴岡市へと繋がるが、ルートの詳細が示されていない。また、立谷沢の中村集落から工藤沢集落にかけてのサイクリングロードには、多数のイチョウの木が植えられているが、銀杏の利用がされていない。さらに、サイクリングロードの起点となる施設や休憩所がなく、マップや観光情報等が入手できない。

[意見]

(1) 清河八郎記念館

ア 空調設備の設置は資料保管の観点から必要であるほか、老朽化対策、危険個所の修理は危険防止の観点からも支援を検討すべきである。

イ 清河八郎の新たな明治維新への貢献や人物像の発見に繋げるためにも、多くの漢文資料を正確に解読できる学芸員などの採用・配置について支援を考慮すべきである。

ウ 入館者を増やすために、現在、年に1回行っている特別展示の回数を増やすための支援を行うべきである。

(2) 清川歴史公園

ア ガイドの会のレベルアップを図るための継続的な講座開設等、広く知識人などの活用を検討すべきであり、「きよかわ歴史マイスター」の称号認定を図るなど気運の醸成に努めるべきである。

イ 清川地区振興協議会の清川歴史公園基本構想に沿って、老朽化した体育館のあり方も含め、町の関りについて議論を進めるべきである。

ウ 清川歴史公園は、庄内地方を周遊するルート上の立ち寄り拠点となりうるが、

そのためには大型バスの駐車スペース等の確保は必須であり、清川歴史公園基本構想に沿って駐車場整備の先行を検討すべきである。また、同時にトイレ設置数の拡充も進めるべきである。

エ 清川河川公園で鮎・イワナの掴み取りなどのイベントを収益事業として実施することや、北楯大堰沿いの側道をサイクリングロードとして活用するなどして、歴史公園への導線づくりを行うべきである。

(3) 御殿林

清河八郎記念館への入館者を増やし、歴史公園との相乗効果を高めるためには、御殿林の遊歩道を記念館と歴史公園との導線として整備すべきである。具体的には、木片チップを利用した遊歩道や橋の整備のほか、歴史や動植物の生態など掲示した案内板の設置などを検討すべきである。

(4) 北楯大堰

北楯大堰の景観を生かすためにも、側道をサイクリングロードとして活用することを検討すべきである。

(5) 長者沼

朝日町の大沼が観光スポットとなっているように、長者沼も浮島がかつては確認されており、また、昭和天皇が出目ブナ、片目のフナなどをご覧になったことから、観光地となりうる場所である。このことを案内板やホームページに掲載するなど観光情報として発信をすべきである。

(6) 大谷地湿原

ア 美しい景観を有する貴重な湿原であり、この地域の観光スポットとなりうるか調査し、その可能性を探るべきである。そのためには、平成30年に自然生態系保全モニタリングを行っている県に対し、湿原登録や天然記念物の検討状況を確認しつつ、指定について要請を行っていくべきである。

イ 湿原特有の一般的な植物や生物の案内板や、道路から近いこともあり植物や生物の採取の禁止やマナーなどの注意書きの看板の設置を県に要請することも検討すべきである。

(7) 殿様街道(板敷峠越え古道)

西の羽黒古道、東の殿様街道として、町でもトレッキングコースとして利用しているが、自然豊かな景観のビューポイントや歴史的痕跡を分かりやすく説明した案内板を設置するなどして魅力を発信すべきである。また、殿様街道や大谷地湿原に行くための興屋林道は観光に資する可能性のある林道であり、町は大雨等による補修等を迅速に行うなど林道機能の維持管理に努めるべきである。

(8) 熊谷神社

山形県最大のヒノキアスナロの巨樹や、クマタカ、アカショウビンなどの約100種類の野鳥が生息していることから、町は熊谷神社や周辺の魅力について、観光協会と連携しホームページを更新するなど、最新の情報を発信すべきである。

(9) 月の沢温泉北月山荘

ア 宿泊や飲食もできる持続可能性のある経営を行うため、現在、総支配人となっている地域おこし協力隊員が、十分活躍できるような環境整備を図るべきである。



イ 豪雪地を逆手にとって観光地として誘客するために、降雪が安定する 2 月ごろから営業を開始し、自然を生かしたイベントを集中させるなどして、収支の改善に努力すべきである。また、民間のノウハウや活力を生かした事業運営を行うなど、運営の民間委託についても検討すべきである。

ウ 事業収益に繋がるイベントの素材は多くあるが、これらを生かし実行に移すためには地域住民の協力は不可欠であり、連携や支援について充実・強化すべきである。

(10) 南部山村広場

山村広場がキャンプ等に利用され定着しつつあることから、周知のための情報発信に力を入れるとともに、トイレを含め、施設の維持管理のために協力金をいただくことも検討すべきである。

また、イベント開催時にはできるだけ多くの出店を呼びかけ、特産品の販売や宣伝に努めるとともに、町でも出展ブースを作って、町の魅力の発信や移住定住策の情報発信を積極的に行うべきである。

(11) 六淵砂防堰堤

視察地の酒田市升田の玉簾の滝を参考に周辺施設と連携を図りながら、新緑や紅葉、夏の時節などの季節限定のほか、イベント開催時等も砂防堰堤のライトアップの実施を検討すべきである。

(12) 砂金・化石採掘地

ア 砂金

全国から参加者を募って砂金採りの大会を開催し、立谷沢の自然の豊かさや砂金採りの方法なども体験させることで、関係人口の拡大を図りつつ、北月山荘の施設の利用拡大・魅力発信に繋げるべきである。なお、平成の名水百選に選ばれた立谷沢川の自然を守るために、条例設定を検討すべきである。

イ 化石

既存の施設等を活用するなどして、クジラの化石や砂金（砂金取りの道具）、石器や土偶、湖沼や立谷沢川流域の特異な地形などがわかる展示をし、月山ジオパークの拠点となりうる自然探索や自然科学の学びの場ともなる施設（仮称：立谷沢自然文化交流館）の設置を検討すべきである。

(13) 大池

大池へ観光客を誘客し、ジュンサイを採取・販売する仕組みづくりや、地域住民がこの事業に参加し、地域全体での取り組みができるように支援すべきである。また、私道整備で砂利の支給などの支援を検討すべきである。

(14) 羽黒古道

ア 羽黒古道は羽黒山参りの本来の表参道であったこと、羽黒山本社創建の地と伝えられる「皇野」や蜂子皇子の墓や神社、銅鏡が納められていた鏡池などについて、羽黒古道の観光ガイドブックなどを作成し、情報発信すべきである。

イ 羽黒古道はこれまで地元有志によって整備され、町のトレッキングコースとなっており子供たちの利用（参加）も多い。また、地域の人口減少と住民の高齢化等により古道の維持・整備が厳しい状況にあることから、その支援のあり方や古

道のガイドの育成などの支援も検討すべきである。

(15) サイクリングロード(立川鶴岡自転車道)

町として、この自転車道のルートを周知させるため、情報発信すべきであり、また、サイクリングの起点となる施設や休憩所を明示し、ルートマップや観光・関連情報チラシなども作成・整備すべきである。さらに、地域の活性化や収入に貢献するためにも、地域特産品や記念品などの物販、自動販売機の設置、立谷沢の町有施設を活用しての銀杏の商品開発や販売などを促進すべきである。

以上、今回調査した事件の意見とするが、上記の調査場所や施設については、本町の観光産業づくりの拠点となりうる可能性や魅力が再発見されたが、同時に様々な課題も明らかになった。

立谷沢川流域の魅力ある自然、歴史、文化を対外的に発信し、誘客に結び付け、本町の地域の観光振興に寄与するためには、これらの課題を解決し、それぞれの連関性や相乗効果を高めることで可能となる。

そのためには、立谷沢川流域一帯の自然・文化遺産等の周遊ルートを一見できる案内板を設置するなど、お土産、観光、遊び、学習、体験などをテーマにした一連の観光スポットを可視化し、ホームページに掲載するなどして、観光客を町に止める工夫が必要である。また、自然探索や自然科学の拠点となる施設の設置についても検討するなどして、立谷沢川流域の自然の魅力を発信し観光振興を推進すべきである。

一方、今回調査した場所や施設を維持管理し、四季の美しさや様々な魅力を発信するためには、地域住民の協力やマンパワーが不可欠であり、これら活動のキーマンとなる人材の確保・育成も重要であることが明確になった。

このような中で、地域おこし協力隊などの地元以外の協力者を確保しつつ、地元住民自らが地域の魅力を再発見し、様々なアイデアを事業に昇華させ、さらには持続的に参画し成功事例を積み重ねていくことが人材育成にも繋がる。町は、地域住民が活動しやすい環境づくりと観光拠点となるための様々な形での支援態勢を充実・強化すべきである。

参考資料

庄内町観光交流人口(H30・R1)					(人)	
分類	名称	H30入込数	R1入込数	R1-H30	前年度比	
名所・旧跡	白狐山光星寺	8,985	4,178	△ 4,807	46.0%	
	楯山公園	4,005	3,779	△ 226	94.0%	
	熊谷神社	2,265	2,219	△ 46	98.0%	
	清河神社	1,950	2,223	273	114.0%	
	余目八幡神社	20,000	20,000	0	100.0%	
	北館神社	2,500	2,900	400	116.0%	
	歓喜寺	650	800	150	123.0%	
	御諸皇子神社	350	350	0	100.0%	
	熊野神社	100	100	0	100.0%	
	霊輝院(ミヶ沢の乳イチョウ)	50	72	22	144.0%	
	計	40,855	36,621	△ 4,234	90.0%	
美術館・資料館等	響ホール	30,312	31,359	1,047	103.0%	
	亀ノ尾の里資料館	3,981	2,765	△ 1,216	69.0%	
	歴史民俗資料館	306	10	△ 296	3.0%	
	清河八郎記念館	1,950	2,223	273	114.0%	
	清川歴史公園	0	7,577	7,577		
	内藤秀因水彩画記念館	4,987	5,257	270	105.0%	
	砂防資料館	384	779	395	203.0%	
	耐雪書道美術館	20	3	△ 17	15.0%	
	計	41,940	49,973	8,033	119.0%	
体験・レジャー	風車村	28,257	35,086	6,829	124.0%	
	庄内ゴルフ倶楽部	21,376	22,102	726	103.0%	
	北月山荘	11,461	8,697	△ 2,764	76.0%	
	農林漁業体験実習館	814	1,524	710	187.0%	
	大中島自然ふれあい館 森森	1,269	1,102	△ 167	87.0%	
	カートソレイユ最上川	2,546	4,878	2,332	192.0%	
	セーフティパーク最上川	900	900	0	100.0%	
	北月山ケビン・キャンプ場・ロッジ	177	276	99	156.0%	
	新産業創造館「クラッセ」	185,620	188,340	2,720	101.0%	
	ギャラリー温泉「町湯」	101,449	107,505	6,056	106.0%	
八幡スポーツ公園	194,652	199,595	4,943	103.0%		
	計	548,521	570,005	21,484	104.0%	
産直施設等	あまるめホットホーム	13,522	13,119	△ 403	97.0%	
	道の駅しょうない 風車市場	205,507	220,445	14,938	107.0%	
	やまぶどう(北月山荘)	11,018	10,875	△ 143	99.0%	
	計	230,047	244,439	14,392	106.0%	
祭り・イベント	楯山公園桜まつり	7,000	7,000	0	100.0%	
	植木金魚まつり	16,000	15,000	△ 1,000	94.0%	
	夏宵まつり	8,000	8,000	0	100.0%	
	余目まつり	13,000	13,000	0	100.0%	
	しょうない秋まつり	15,000	19,000	4,000	127.0%	
	月山龍神マラソン	2,800	0	△ 2,800	0.0%	
	米のふる里 新酒まつり	0	450	450		
	月の沢龍神冬まつり	1,000	0	△ 1,000	0.0%	
	龍神月山	2,000	2,000	0	100.0%	
	ややまつり	1,000	1,000	0	100.0%	
	キャンドルナイトinしょうない	50	73	23	146.0%	
	エコランド(旧エコツアー(環境塾))	763	1,122	359	147.0%	
	立谷沢川流域交流事業	4,057	3,360	△ 697	83.0%	
	JICA青年研修受入事業	18	0	△ 18	0.0%	
	明治維新150年記念事業	500	0	△ 500	0.0%	
	日本一おいしい米コンテスト決勝大会	1,000	1,000	0	100.0%	
	一店逸品スタンプラリー	20	104	84	520.0%	
	まちゼミ	0	312	312		
	着地型、ガイドツアー	531	1,080	549	203.0%	
	たべぶらパスポートスタンプラリー	1,750	1,229	△ 521	70.0%	
	計	74,489	73,730	△ 759	99.0%	
宿泊施設	余目ホテル	7,057	7,203	146	102.1%	
	民宿ふきのとう					
	長村旅館					
	ビジネスホテル泉					
	北月山荘					
	余目第四公民館					
平成館						
民宿源助						
	合計	942,909	981,971	39,062	104.0%	
庄内町商工観光課調べ						
		H26入込数	H27入込数	H28入込数	H29入込数	
		708,845	810,429	857,847	943,096	

視察地 山形県酒田市升田  
玉簾の滝

1 視察年月日 令和2年10月6日

2 視察の目的

大自然の中に埋もれてしまっている観光資源を掘り起こすため、地域資源を活用し、稼げる観光産業づくりや、地域の魅力発信に取り組んでいる酒田市升田集落の取り組みを調査することとした。

3 視察地の概況

- (1) 世帯数 63 世帯
- (2) 人口 154 人

酒田市升田集落は、旧八幡町の最北東部に位置し、北は鳥海山系、南東は出羽丘陵の山並みに囲まれ、鳥海山と前ノ川水系を集めて西流する日向川流域の水田地帯にひらけた山間集落である。

北は秋田県由利本荘市、北西は遊佐町、東は最上郡真室川町に接し、縄文時代の遺跡として近隣からは住居跡、石器、土器等が出土しており、また、平安後期に入ると、壇ノ浦の戦いで源氏に破れた平家の一族池田彦太郎秀盛5人兄弟の内、1人が升田に逃れ住んだことなどが伝わっているなど、長い歴史と伝統のある集落である。

昭和50年(1975年)頃は、世帯数150、人口500人を越えていたといわれているが、令和2年9月現在では、63世帯154人となっている。特に冬は1.5mから2.0mの積雪があるため、若者を中心に酒田市の中心部へ引っ越すなど、急激に過疎化が進んでいる。

升田の景勝地としては、玉簾の滝のほかに数河(すご)の池、モリアオガエルの繁殖地として知られる鶴間池、鳥海高原家族旅行村などがある。

4 取り組みの現況

(1) 玉簾の滝

1200年前弘法大師が神のお告げにより発見し命名したとされる山形県随一の直瀑の滝である。高さは約63mの垂直な断崖絶壁から幅約5mにわたり、清冽な水しぶきをあげ珠玉雲霧をあげて落下するさまは豪快で「玉すだれ」のような気品をもっており、升田の滝・白糸の滝・日向滝とも呼ばれている。

かつては山岳宗教の修験場であり、滝の前には勝負の神様で知られる「御嶽神社」が祀られている。駐車場からは遊歩道が整備されており、升田の集落より徒歩約10分で達することができる。周辺には、杉の大木があり、マイナスイオンがあふれることからパワースポットとしても人気の景勝地となっている。

平成11年からはゴールデンウィークとお盆の時期にはライトアップも実施され、日中とは違う幽玄な世界を見ることができる。1月中旬から2月上旬の寒さが厳し

い季節には、氷瀑を見ることもできる。ただし、平成25年からは冬の時期のライトアップは行われていない。また、駐車場には「産直ららら」があり、食事を取ることもできる。

(2) 滝の里活性化推進会議

平成10年から3年間実施された、山形県の事業「滝ノ沢川ふれあい水辺整備事業」をきっかけに、消防団、青年団、婦人会、区の役員などで構成する「滝の里活性化推進会議」を結成した。

地域を活性化したいとの思いは現在も受け継がれており、今は16人で構成されている。

(3) 玉簾の滝ライトアップ事業

ア ライトアップについて

県の事業で滝ノ沢川周辺と滝までの遊歩道が整備されることとなり、活性化推進会議では、イワナが見える川、カブトムシやクワガタを捕まえることのできる環境をつくろうと、禁漁区の指定、ナラの木の植樹などを決定したが、同時に夜間のライトアップもいいのではないかとの話から、地元建設業者の協力を得て、平成12年に「玉簾の滝ライトアップ」を実施した。工事用の発電機を使い、水銀灯で照らされた滝の姿は、景観が素晴らしくとてもいいと評判になり、訪問客が激増した。

2年間は発電機を利用し、線を引っ張って実施したが、毎晩の点灯作業や、特に真っ暗で危険も伴う消灯作業が課題となっていたため、平成15年、東北電力による高圧線の鉄塔設置工事を機に助成を申請。20万円の助成を受け、照明用水銀灯4基、参道用水銀灯1基を設置、電線の地中化、配線整備などを行った。

イ 施設の整備状況について

観光客の増加に伴い、駐車場整備、「産直ららら」が、酒田市により整備されている。ただし「産直ららら」は食事スペースが狭いため、地元農家の協力でパイプハウスを活用したテーブルの増設を長年続けている。

ウ 導入費用、維持費、管理費、財源等について

地元建設業者の機材をお借りして始まったライトアップ事業は、平成15年に東北電力から20万円の助成を受け本格的に整備され現在に至っている。経費の主なものとしてはライトアップの電気代があるが、酒田市より助成金として63,000円を頂いている。

ほかに、ライト設置・撤去、滝付近の清掃(その都度)、350mの遊歩道の草刈(年4回)、ローラーを使った通路の整備、ビニールハウス設置・撤去、ビニールの更新は自治会、老人クラブ、業者、神社役員などが無償ボランティアで行っている。

エ 産直ららら

元々は地元婦人会を中心に売店を始めたが、その後駐車場の整備と併せ、平成16年旧八幡町が直売所を立ち上げ、合併後「産直ららら」となった。令和元年までは指定管理を受け運営してきたが、地元としては観光客の増加に伴い、簡素なものを拡張したいとの思いから市に譲渡を申し入れた。しかし、自治会には譲渡

できないとの回答を受け、株式会社酒田米菓を受け皿とする、鳥海山南テラス株式会社を立ち上げた。出資金10万円で20人の株主を募り、玉簾の滝を拠点とした観光事業の発展を狙いとして運営している。

オ 観光客数の推移と対応

観光客数を把握するために、参道入り口にセンサーを活用したカウンターを設置し、プレハブ内にあるパソコンに送信している。また、令和2年はコロナウイルス対策として、遊歩道の行き来を分離した一方通行を実施した。

(ア) 観光客数

年度	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
人数	273,000 人	291,000 人	302,000 人

賑わう月 4月、5月、7月、8月、10月、11月

(イ) ライトアップ期間の観光客数

夜 18 : 30 ~ 21 : 00

令和元年	8/9	8/10 (土)	8/11 (日)	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17 (土)	8/18 (日)	合計
天気	—	—	—	—	—	—	—	台風	—	—	
人数	84	171	482	411	501	427	412	0	124	238	2,850

令和2年	8/8 (土)	8/9 (日)	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15 (土)	8/16 (日)	合計
天気	雨	雨	晴れ	晴れ	雨	曇り	曇り	曇り	曇り	
人数	45	0	365	382	40	703	589	1,375	1,110	4,609

令和2年は令和元年より1,759人増加している。ただし、令和2年はコロナウイルスの影響で、5月のライトアップは実施していない。

(ウ) 交通誘導

これまでも観光客は天候によって違いがあり、雨により誰も来ない日もあれば、晴れば300人以上が訪れる状況となっていた。特に土曜日、日曜日は、大渋滞となることも度々あり、駐車場内の誘導に加え、集落内へ入ってこないようにと、矢印看板の設置や農道の一方通行の実施を計画している。

カ ライトアップ「協力金」の徴収

今年で21年目を迎えたライトアップ事業は、経年劣化により水銀灯本体、配線設備、ブレーカー等に3年ほど前からトラブルが発生している。更新のための見積もりではLEDへの交換費用を中心に150万円ほどが見込まれており、自治会内での議論では、やめたほうがいいのではないかとの声もあった。しかし、多くの人が来ているのにやめるわけにはいかないとの意見を受け、酒田市に助成をお願いした。酒田市からは滝の管理が地元であることから現行の助成金の上乗せはできないとの回答があり、別の対策を講ずることとした。

こうして始まった1人100円の「協力金」の徴収は令和元年から実施し、2年目となっている。これまで無償ボランティアで協力してもらっている様々な仕事の一部として、お盆の期間の協力金徴収係、準備、駐車場係としての人件費やコ

コロナウイルス対策費用等が支出された。今後は、ライトアップ本体の更新費用の捻出を予定している。

キ 今後の展望

玉簾の滝の更なる魅力の発信策として、

(ア) 参道や木にイルミネーション

仙台市の樗並木を照らす光のペイジェントのように、参道や木にフットライトやLEDイルミネーションを設置し、より魅力的にする。

(イ) 冬期間の氷瀑

1月下旬から2月上旬頃の氷瀑を照らす。5月の連休や8月のお盆以外の夜の滝の魅力を紹介する。

(ウ) 協力金を活用した自治会費無料へ

(エ) 来訪者への地元産物の還元

協力金へのお礼として、地元産米一合の記念品、滝の写真入ラベルを貼った容器の開発。

5 考 察

玉簾の滝を訪れる年間観光客は、令和元年で302,000人を記録するなど年々増加傾向にあり、酒田市のみならず、山形県を代表する観光スポットとなっている。特に21年目を迎える玉簾の滝ライトアップ事業は、これまでもテレビ等のマスコミを通じて度々紹介されるなど認知度も高まっており、コロナウイルスの影響で来訪に制限がある中、令和2年8月8日から16日までの9日間では、4,609人もの方が夜間訪れており滝の更なる魅力発信につながっている。

また、事業母体である滝の里活性化推進会議では、設備の更新費用の捻出やライトアップ期間中の交通渋滞対策などの課題はあるものの、更なる魅力発信策として、参道や木にフットライトや、LED照明を使ったイルミネーションの設置、冬期間の氷瀑のライトアップも検討されている。一方、行政との関わりでは、助成金の増額の見送りを嘆くのではなく、自前での設備費用確保のため「協力金徴収」を開始するとともに、産直施設運営のための株式会社を設立するなど、行政に頼らない運営をめざしている。

今回、事業の紹介をしていただいた池田善幸氏は、通年でハウスでのバラ栽培に取り組んでいる農家であるが、現在、升田集落自治会長を務めるとともに、鳥海山南テラス株式会社代表取締役社長、保護司、酒田警察署少年補導員連絡会会長など多くの地域活動にも参画しており、滝のライトアップ事業でも、開始当初から関わってきた人物である。

21年目を迎えたライトアップ事業は、多くの地元住民のボランティアによって支えられ今日に至っているが、「地元の間人が動いたから人が来た」と苦労話を笑って披露する池田氏の豪快さとともに、地域を良くしたいと願う強い想いが会話を通じて感ずることができ、池田氏が事業継続のキーマンであることは間違いない。

酒田市升田集落の取り組みを庄内町に置き換えれば、平成29年に日本登録有形文化財に登録された、六淵砂防堰堤を想定できる。暗闇に浮かぶ荘厳な水の流れは、見る

人に感動を与え、パワースポットとして町の新たな魅力発信につながる可能性を秘めている。

しかし、そこには地元住民の関わりが不可欠であり、立谷沢地区の自然資源同様、魅力を生かそうとする地元の気概が何よりも重要である。また、行政はその取り組みを後押しする仕組みが必要である。